

コロナがまた勢いを取りもどしているようです。世の中全般は、もう過去のことのような雰囲気になってますが、医療現場では第9波を意識しています。うがい、手洗いそしてマスクは必須です。



交野市・機物(はたもの)神社

七月です。織女(しよくじよ)(琴座のベガ)星は裁縫の仕事を、牽牛(けんぎゅう)(わし座のアルタイル)星は農業の仕事をつかさどる星と考えられ、旧暦の七月七日はうつくしい天の川をはさんで、この二つの星が一段と輝いて見えることから、中国の故事に倣って一年にたった一度の巡り会いの日というお話になったわけです。残念ながら、新暦の七夕は梅雨の真っ只中ですので、雲の彼方の出会いを想像することが多いようです。一方、日本古来の「棚機(たなばた)」は、女性が着物を織って棚にそなえ、神さまを迎えて穢(けが)れを祓うというものでした。いつの時代も「祈りの形」は趣(おもむき)がありますね。

【ニュース】

① 診療日の変更

今月は休診の予定はありません

8月は12日(土曜日)が休診です。

② コロナワクチン予防接種(土曜日)の日程

7月の接種日 15日 29日

8月の接種日 19日

9月からは接種株が変わるという連絡を受けてます。
詳細が分かりましたら、またご連絡いたします。

③ 川柳コーナー

6月で95歳になられた方の作品です

年重ね 日々薄れゆく思い出を

三十一文字(みそひともじ)に記憶とどめん

生かされて 今ある命 慈(いつく)しむ

黄泉(よみ)の国から 迎え来る迄

評:重ねてこられた歳月のことを大切にしておられることがよくわかりますね。

【ミタクリ漢方 吉益東洞のこと (その2)】



(前号より)吉益東洞が生きた18世紀前半は、この考え方の影響を強く受けていると考えられます。東洞は、もともと外科・産婦人科(金瘡産科)を学びましたが、その後、医経(『黄帝内経』、『傷寒雑病論』、『千金方』など)さらに後世の金元医学(李朱医学)を学び、さらに春秋～戦国時代の富国強兵の思想的基盤を築くための書『(周礼』、『書経』、『論語』、『呂氏春秋』、『史記』など)を精読しています。つまり学問的基盤を確立する上で、空理空論を廃し、「事実に基づく」ことに重きを置いた医説を展開したわけです。

『呂氏春秋』、『史記』など)を精読しています。つまり学問的基盤を確立する上で、空理空論を廃し、「事実に基づく」ことに重きを置いた医説を展開したわけです。

私たちは、日々の診療の中で、その人の身体の中で何がどうなっているのか、その原因を知り、治療方針を立てていきます。空理空論、つまり「お話(おとぎ話)」はいらないわけです。しかし、洋の東西を問わず、難病難症の病人さんを診ていく上では、「事実に基づいた知見」に「その先生の経験をもとにしたお話」があわさって治療が進みます。解剖学も生理学もない時代、わからないことだらけの中、東洞の「事実に基づいた知見」への渴望がいかに強かったかは想像に難くありません。『古事医言』がその出典といわれている「万病は唯一毒、衆薬は皆毒物なり。毒を似て毒を攻む。毒去って体佳なり」は、享保16年(1731年)、東洞はまだ30歳の時の考えです。これは、金言として扱うものではなく、八綱弁証や天地一体という中国医学の基本的な考え方を、古典の中で概観していく過程で提唱された、現在進行形の考え方でしょう。

(次号に続く)

【欣子先生の診察室だより ～6月は学会出張と田植え～】



私たち医者勉強の場である学会。毎年持ち回りで全国各地で開催されます。その学会が行われる地に行って参加することがいままでの常識だったのですが、コロナでその常識も一変しました。コロナ禍にはオンライン開催というのが始まり、3年たち現地参加+オンライン参加というハイブリッド型開催というのが増えました。オンライン開催は家においても学会参加して勉強ができるのはありがたいし、あとでもう一度聞きなおしたり聞けなかったセッションをいくつも聞けたりなどのほか交通費+ホテル代の節約・・・のメリットなどが大きいのです。一方で演者の先生に直接お会いしてお話したりするのは現地参加の醍醐味でもありますので、今年は思い切って東京に行くことにしました。けどなぁ・・・今年これや！とおもうセッションにであわず、皆さんにこれが面白い！って伝えるものがなかったんですね。なんでやろ。東京はどこまで行っても、人ひと人でごった返しているし、町は地価が高いせいか、つめつめだし、まだ大阪に比べて緑が多いのは救われるけど、息ができない。

途中で抜け出して日本民藝館に行ってきました。民藝運動をたちあげた柳宗悦の拠点で

す。ここは地味だし人がいないと思って行ったのですが、ここも混雑・・・ハア・・・東京では住めないと疲れて帰ってきた次第です。

で、宇陀では・・・やっぱり緑が多い場所は癒されます！そして田植えの季節です！

遅れに遅れた田植え・・・さあ、がんばるぞー！とやる気満々だったのですが、去年の田植え時の尻もちや、足が抜けなくなって小学生に引っ張り上げてもらう事態に、今年は戦力外通知を受けまして（泣）雑務を与えられました。

田植えと言っても機械じゃありません。手植えです。籾をまいて発芽した稲の苗はくっついてひと固まりになっていますので、それを手でほぐして一本一本の苗にし、その苗をあつめた束をつくります。それを田植えする人に渡して植えてもらいます。

私はどうも破傷風が怖くて、長靴でないと田んぼに入れないのですが、それが泥に足を取られる原因です。破傷風菌は土壌に広く生息する菌ですが、傷口から入り神経毒素を産生して口が開けにくいといった症状から始まって最後には全身の筋肉が硬くなって息ができなくなることもある病気です。田んぼの持ち主は「破傷風？そんなん聞いたことない。大丈夫、大丈夫！裸足でやらんと！」といいますが、診たことがある身からすれば怖いのです。予防接種は子供の時にみんな受けているはずですが、農作業をするひとは追加接種しておいたほうが安心です。（堺周辺の皆さんでは、錆びたくぎが足に刺さった、古い鎌で手を切った、動物に咬まれた・・・などが感染源としてありうるので、そんなことがあれば必ず受診してください）

福岡から来た同世代の友人は「こんな履いてたら仕事できん」と長靴を脱いで靴下で！尻もちもつかず！すいすいと植えていきます。靴下で入ったせいか？いや彼女は乗馬をやって、インナーマッスル鍛えられてるからかな？数日後「筋肉痛ゼロ！」のLINEメッセージが届きました・・・私は田んぼに入っていないのに膝を痛め・・・自分のアンチエイジングについて反省が必要ですね。

【こんにちは！フットケア外来です～6月号】

看護師・泉谷めぐみ 蔭西訓子

今月は水虫（白癬）についてのお話です。

暑さ厳しい中、サンダルなど夏は足を見せることが多い季節ですね。足トラブルの多くを占めるものに**水虫（白癬）**があります。

足にうつる水虫には、小水疱型・趾間型・角質増殖型、そして足の爪に感染する爪白癬の4種類があります。

また残念なことに水虫の原因となる白癬菌は高温多湿を好むため、夏になると菌の活動が活発になり、大暴れしだすのが小水疱型・趾間型です。

このように日常生活にとっても身近な水虫ですが、爪白癬は白癬菌という真菌（カビの一種）が爪に寄生して生じます。真菌は成長速度がそんなに早くないため、一日で急に症状が悪くなることはありません。診断には顕微鏡で白癬菌を見つけ、ぬり薬やのみ薬で治療することになります。身近な方にうつしやすい水虫です。気になる症状があればご相談くださいね。



【紬～つむぎ～通信 6月号】

蔭西訓子 辻阪巴恵子 磯田久恵

猛暑の季節になりました。

7月16日（日） 14:00～16:00

堺市西文化会館・ウエスティセミナールーム（7階）

大河内 大博 講演会 「たましいの響き」

先日5月28日に勇美記念財団助成事業としての「人生会議」第一弾、早川千晶さん講演会を終了しました。患者さんを含め、たくさんの方に参加いただき、ケニアでのいのちの重さ、いのちをつむぐことをお聞かせいただきました。

さて、第二弾は7月16日（日）堺市西文化会館・ウエスティにて 浄土宗 願生寺ご住職大河内大博先生の講演会となります。

大河内先生は、2001年よりチャプレンとして緩和ケア病棟などで入院中の患者様たちのこころの声を傾聴される活動をされ、現在は住吉区でお寺と看護が手を取り利用の方々にとって「ええご縁」となるようにと、さっとさんが訪問看護ステーションの共同代表もされています。

前回の早川千晶さんからは世界の死生観をお伺いし、今回の大河内先生からは日本での死生観、いのちの活かし方を学ばせていただける貴重な場です。スタッフ一同で良い場にしたいと思います、ご参加お待ちしております！

*「さっとさんが」とはサンスクリット語で“ええご縁”という意味



クリニックは、5 類引き下げ後も、緊急事態宣言下と変わらぬ対策をいたします。

クリニックの現在の対応について、ご協力よろしくお願いします！

- ① まず、ウイルスを「持ち込まない」ように細心の注意を払っています。
クリニック内を 1 時間半おきに消毒し、常時換気をしています。待合では間隔を空けて座っていただきます。それでも、待合が混雑したら、元気な方にはウオーキングをお願いしています。
- ② 予約の日であったとしても、調子が悪い場合はすぐに来院せず、まずお電話でご相談ください（072-260-1601）。コロナ専門外来をご受診いただくか、他の病院に紹介すべきかを、まず判断します。当院で診察をする場合は、一般の予約の方と時間と場所を分けて診察しますので、来院していただく時間を指定いたします。
- ③ 2022 年 4 月よりかかりつけの方には、鼻咽頭ぬぐい液を用いる抗原定性検査および PCR 検査、さらにはインフルエンザの迅速検査も実施させていただいています。しかし、他の迅速検査（溶連菌・マイコプラズマ）は引き続き中止しています。
- ④ クリニック滞在時間を短くするために、尽力しています。診察時間も意識して短くしています。いままでのような、ゆったりしたお話もできないかもしれません（ごめんなさい）。待ち時間が発生するため血液の迅速検査は“どうしてもの場合だけ”に制限させていただきます。質問事項（今回はどんなお薬が必要か、どういった体調の変化があったか、など）や残薬など、あらかじめメモして持参いただけたら助かります。
- ⑤ でも、お困りのことがあれば、ちゃんとお聞きして関係各所におつなぎしますのでご相談ください。「仕事がなくなってお金が入らない」「家賃や公共料金の支払いに困っている」などです。
- ⑥ ミタクリでは、現在オンライン診療（テレビ・電話）を行っています。利用する際には、機器使用料など、いくつかの条件があります。電話のオンライン診療は、7 月末で終了しますので、よろしくお願いいたします。詳細につきましては、どうぞ遠慮なくおたずねください。

【外来担当医一覧 2023年7月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	異	異 三谷	異（訪問診療） 三谷	異	異 (オンライン可) 三谷	三谷 (オンライン可)
午後 (14:00-16:00)	異 (オンライン可)	異（訪問診療）	異（予約） 三谷（訪問診療）	異（訪問診療）		
夜診 (16:30-18:30)		三谷 (オンライン可)	三谷 (オンライン可)		三谷 (オンライン可)	